

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援事業所 エールマリヤ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日 ~ 2025年 2月 15日		
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	23	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	2025年 2月 16日 ~ 2025年 2月 25日		
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが楽しみにして通える信頼関係の構築と満足度	一人ひとりにしっかりと関わり、温かく迎えることで子どもとの信頼関係を築いている。また、日々の支援内容を連絡帳やアプリで丁寧に報告し、保護者との共通理解を深めている。	今後も個々の特性や興味に合わせた活動内容を工夫し、子どもが自発的に楽しみながら成長できる支援を継続する。また、保護者への丁寧なフィードバックも維持していく。
2	併設園との連携による充実した環境とインクルージョン	こども園と併設している利点を活かし、園庭やホールを使用したダイナミックな活動を取り入れている。また、避難訓練を合同で行うなど連携を図っている。	こども園との交流機会をさらに活用し、インクルーシブ保育の観点からの意見交換や、より自然な形での異年齢・他児との交流機会を増やしていく。
3	清潔で安全な療育環境の提供	毎日の清掃・整理整頓を徹底している。また、安全計画や各種マニュアル(事故防止・感染症等)を策定し、職員間で共有・確認を行っている。	安全計画やマニュアルの内容について、職員間での共有にとどまらず、保護者に対しても「エールだより」やアプリ配信等を通じて定期的に周知・説明を行う機会を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われるること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の実施不足	現状、具体的なペアレント・トレーニングや保護者同士の交流会(茶話会等)を開催できておらず、保護者のニーズに対応しきれていない部分がある。	研修等で知識を深め、ペアレント・トレーニングの実践や、保護者・きょうだいが参加できるイベントや交流会の開催を計画し、家族支援の充実を図る。
2	非常時訓練の全利用者への周知・参加	月に一度、併設園と合同で避難訓練を行っているが、利用曜日が異なる子ども全員が訓練に参加する機会を確保することが難しい現状がある。	実施日や時間帯を工夫し、全ての利用者がいずれかのタイミングで避難訓練に参加できるよう計画を見直す。また、家庭での対応も含め保護者への周知を徹底する。
3	第三者評価の未実施と職員研修の体系化	外部からの客観的な評価を受ける体制が整っていない。また、研修参加の機会はあるものの、スーパーバイズを受ける機会や体系统的なスキルアップの仕組みが不足している。	第三者評価の導入を検討するとともに、業務時間内で効率的に研修を受けられるプログラムの策定や、専門的な助言(スーパーバイズ)を受けられる体制づくりを進める。